



最近の県内経済情勢

令和5年10月25日

財務省関東財務局

前橋財務事務所

問い合わせ先
前橋財務事務所 財務課
電話 027-896-2908(直通)

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、持ち直している」

項目	前回(5年7月判断)	今回(5年10月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直しつつある	持ち直している	↗

(注)5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、一進一退の状況にある。

【各項目の判断】

項目	前回(5年7月判断)	今回(5年10月判断)	前回比較
個人消費	持ち直している	緩やかに回復しつつある	↗
生産活動	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている	↘
雇用情勢	足踏みの状況にある	一進一退の状況にある	→
設備投資	5年度は増加見込みとなっている	5年度は増加見込みとなっている	→
企業収益	5年度は減益見込みとなっている	5年度は増益見込みとなっている	↗
企業の景況感	「下降」超幅が縮小している	「下降」超幅が縮小している	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	→
公共事業	前年を上回っている	前年を下回っている	↘

【先行き】

先行きについては、各種政策の効果もあって、景気の持ち直しが続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、ドラッグストア販売額、家電大型専門店販売額、ホームセンター販売額、乗用車販売は前年を上回っている。また、宿泊・観光は持ち直している。全体としては、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 外出機会の増加も影響し、衣料品の売上が前年よりも伸びている。また、化粧品はマスク無しで外出する方が増加していることで需要が伸び、売上が堅調に推移している。コロナ禍で落ち込んだ消費の改善の兆しが見えている。(百貨店)
- 7-9月の売上高は前年比で5%以上増加しており、値上げの影響や改装した店舗での売上が好調であったため前年よりも伸びている。人流の回復により客数も前年より3%程度伸びている。ただし、お客様は物価高で節約志向となっており、必要なものだけを購入する傾向がある。(スーパー)
- 売上は前年比で大きく増加している。主な要因としては、猛暑によるエアコンをはじめとした季節商品への特需や、冷蔵庫・洗濯機等の日々の生活の質を高める為の高付加価値の家電や省エネ家電の需要増が挙げられる。(家電量販店)
- メーカーからの新車の配車が増えており、前年比で販売が伸びている。配車がかなり改善しているものの、人気の新型車については需要に供給が追いついておらず、抽選で販売している。(自動車販売)
- 前年と比較して、7-9月の入込客数は増えている。個人旅行も団体旅行も増加している。また、外国人の旅行者も増えており、特に台湾やタイからのお客様が増えている。人流の回復によるものと思料。(業界団体)

■ 生産活動 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

生産活動は、汎用機械・生産用機械・業務用機械は増加しているものの、輸送機械、化学、食料品は減少しており、全体としては、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

- 4-6月と比べて7-9月の生産数量は増加している。背景として、製品の制御に使用する半導体が手に入りやすくなったことがある。(生産用機械)
- 4-6月と比較して7-9月の生産は好調を維持している。半導体不足により部材が入らない状態が継続していたが、7-9月は改善してきており、部材の調達しやすい状況にある。(業務用機械)
- 国内の生産数量について4-6月期と比較すると7-9月はほぼ同程度。8月には国内生産台数を減少させているが、工場の工事を行ったことが影響したものの、9月は7月と同水準の生産数量。(輸送機械)
- 生産数量は低調な状況となっている。PC・スマホ需要が低迷していることから、電子材料向けの製品が不調。前年同時期と比べても、同様の理由で業況は悪くなっており、生産数量は減少している。(化学)

■ 雇用情勢 「一進一退の状況にある」

新規求人数は増加しており、有効求人倍率は上昇している。雇用情勢は一進一退の状況にある。

- 従業員の過不足感については、過剰。正規・非正規社員数ともに前年より減少させている。自動車業界のEV化により主力受注であった製品の受注量が減少傾向にあり、余剰人員が生じている。(製造業)
- 従業員の過不足感について、生産活動には繁閑差が激しく波があるが、今は好調であるため人手はやや足りない状況。繁忙期には短期的に期間工を雇って対応している。(製造業)
- 従業員は不足している。正規・非正規社員ともに不足している状況。特に非正規社員は募集をかけてもなかなか集まらない。(小売業)
- 人員不足の部署があるものの、経費削減の一環として人件費の削減を進めているため、不足する人員の補充まで至っていない。(小売業)

■ 設備投資 「5年度は増加見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期

- 製造業では前年比68.5%の増加見込み、非製造業では同36.9%の増加見込みとなっており、全規模・全産業では同46.5%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「5年度は増益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期

- 製造業では前年比16.9%の増益見込み、非製造業では同1.6%の増益見込みとなっており、全規模では同4.3%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超幅が縮小している」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期

- 先行きについては、5年10~12月期に「上昇」超に転じ、6年1~3月期に「下降」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数で見ると、持家、貸家は前年を上回っているものの、分譲は前年を下回っており、全体では前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

- 前払金保証請負金額で見ると、国、県、市町村のいずれも前年を下回っており、全体でも前年を下回っている。



最近の県内経済情勢

(資料編)

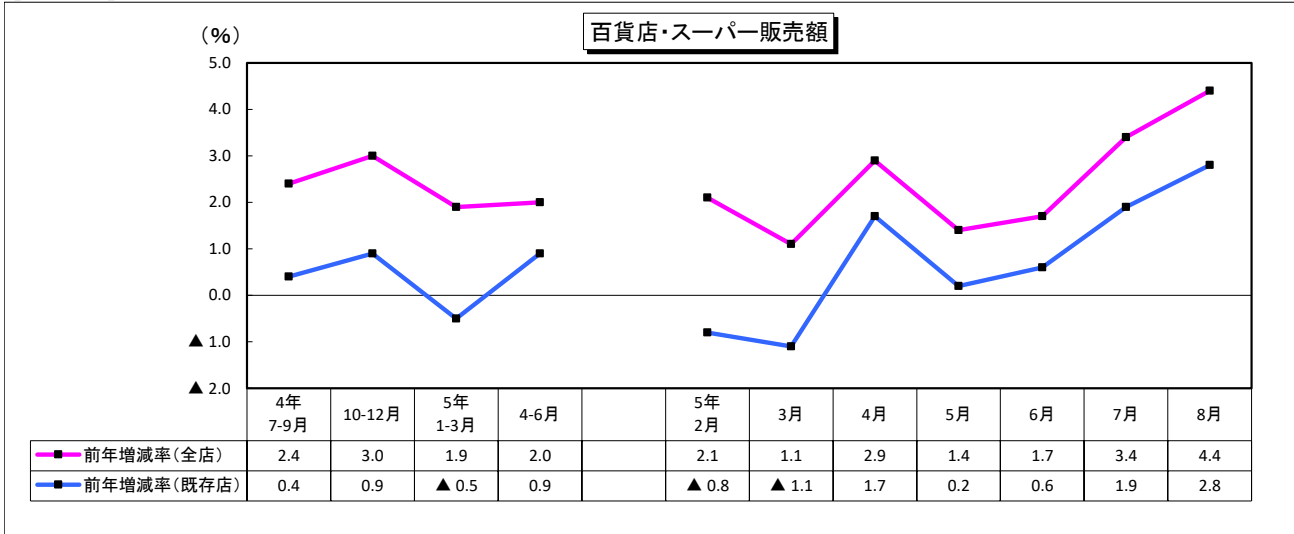
令和5年10月25日

財務省関東財務局
前橋財務事務所

1. 個人消費

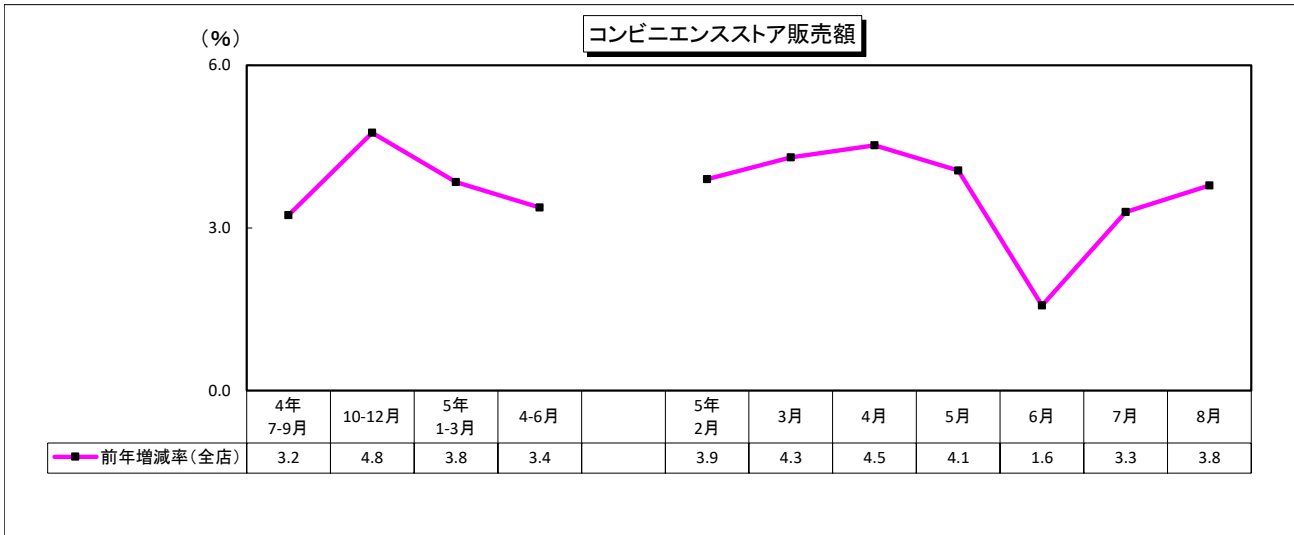
緩やかに回復しつつある

[グラフ1]



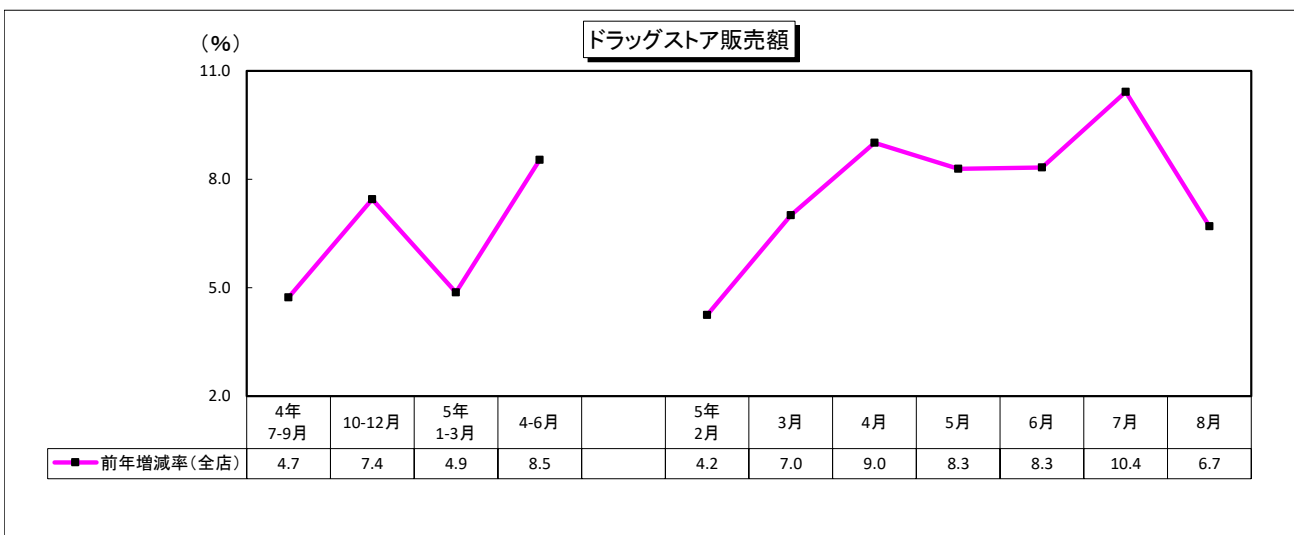
[経済産業省]

[グラフ2]



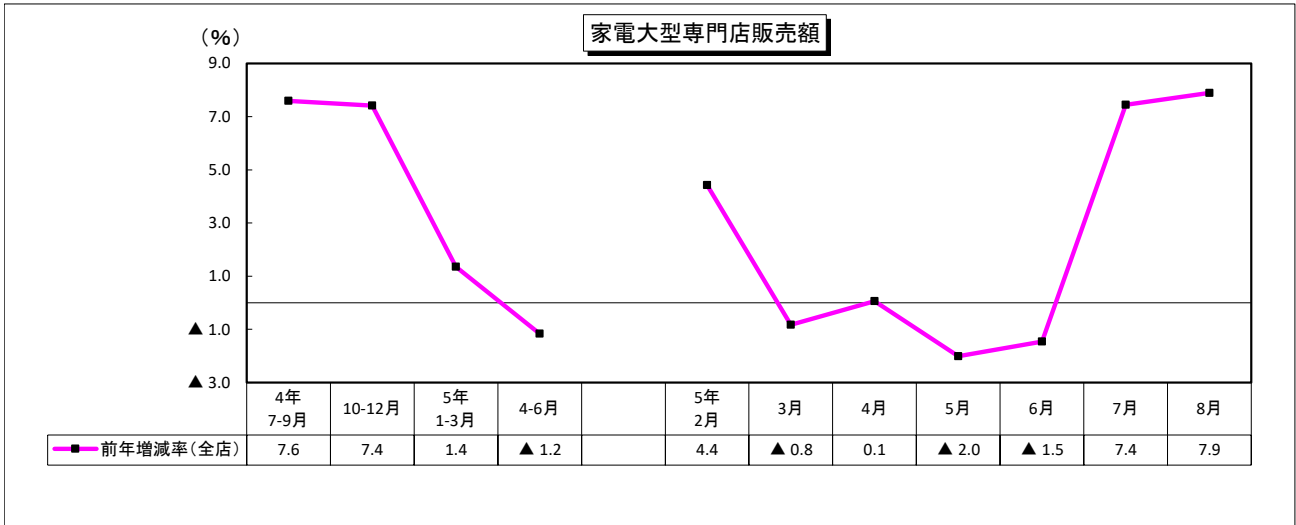
[経済産業省]

[グラフ3]



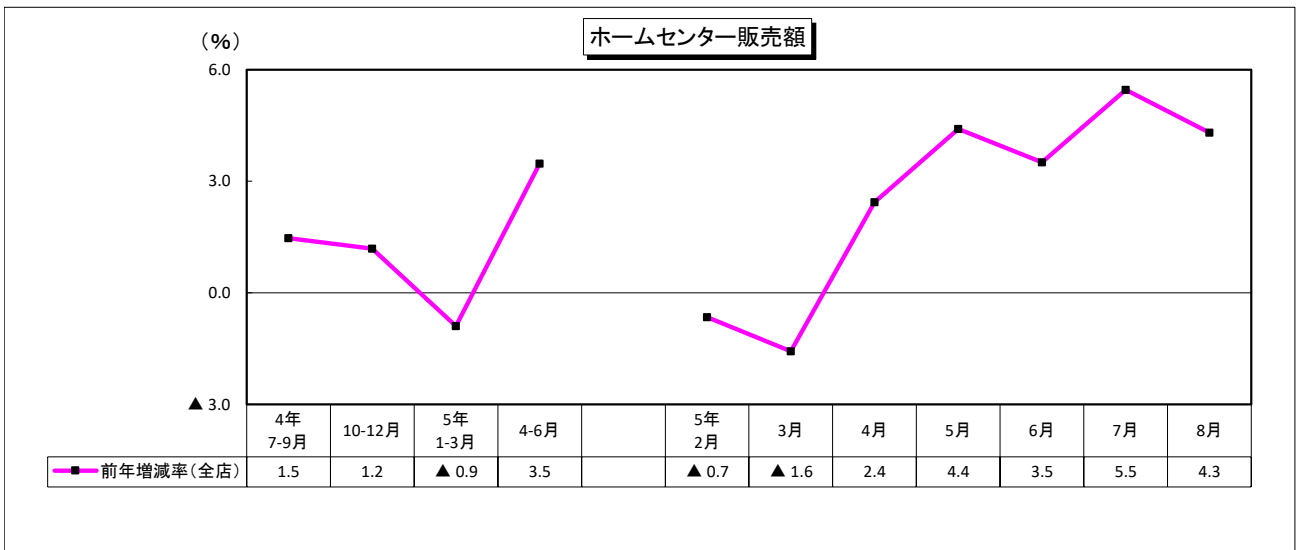
[経済産業省]

[グラフ4]



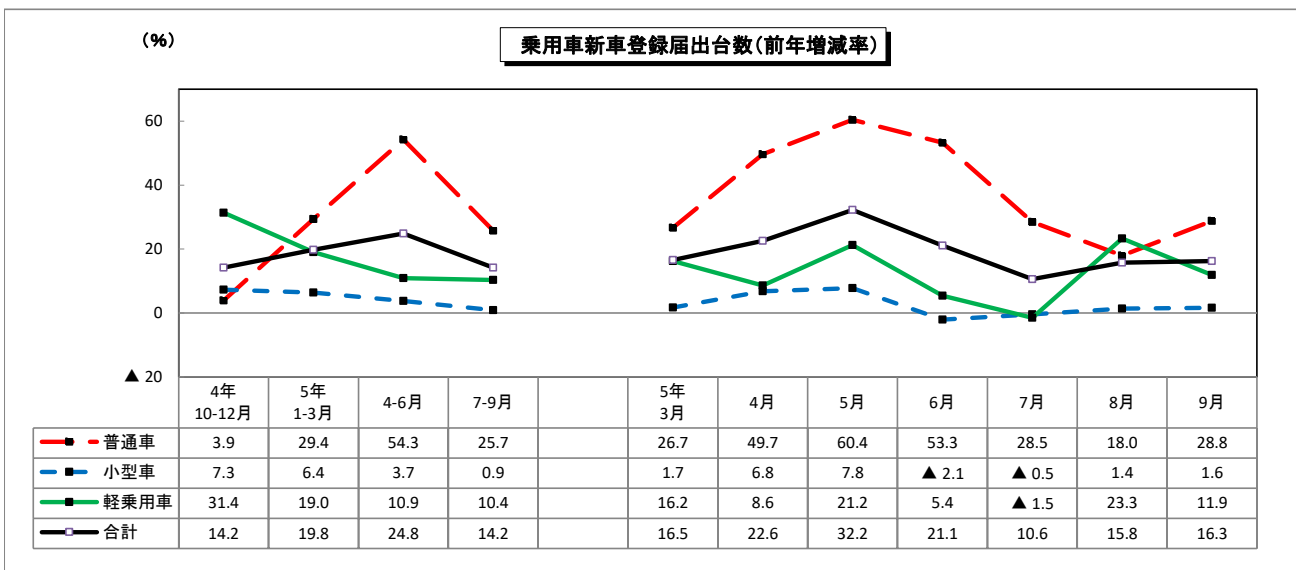
[経済産業省]

[グラフ5]



[経済産業省]

[グラフ6]

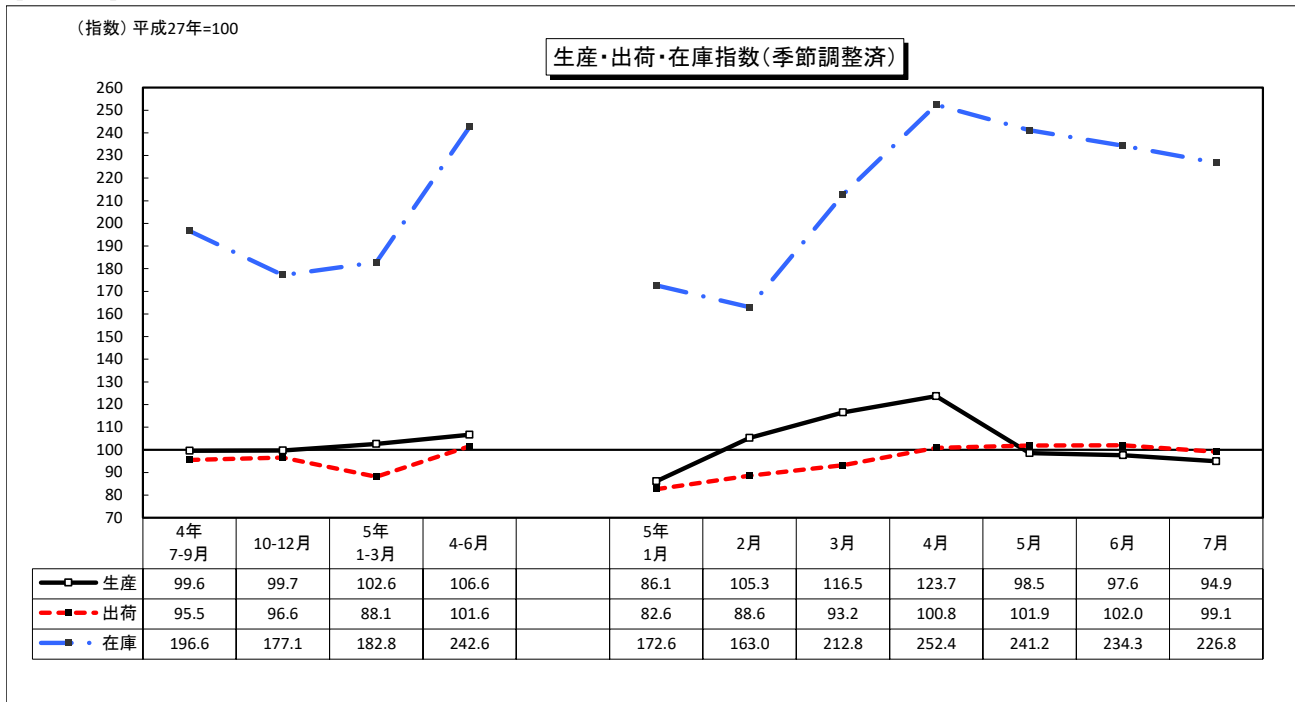


[日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会]

2. 生産活動

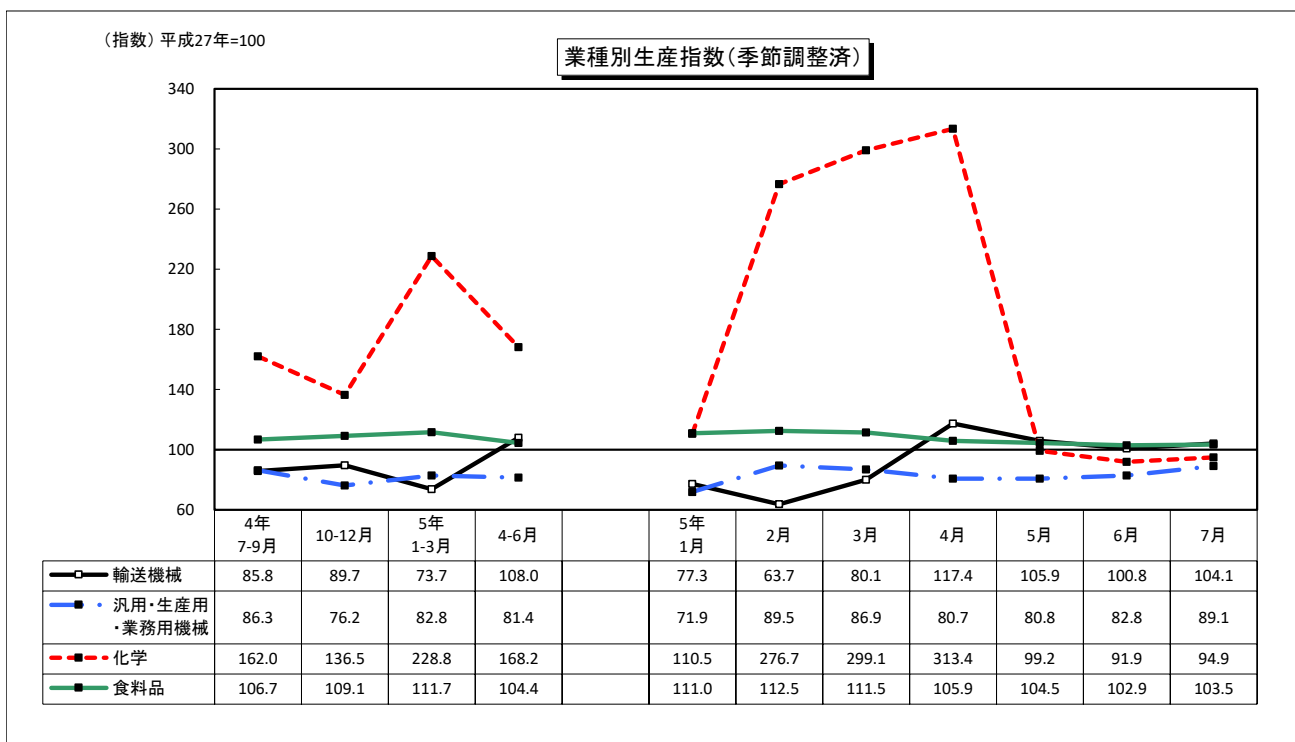
持ち直しのテンポが緩やかになっている

[グラフ7]



[群馬県]

[グラフ8]

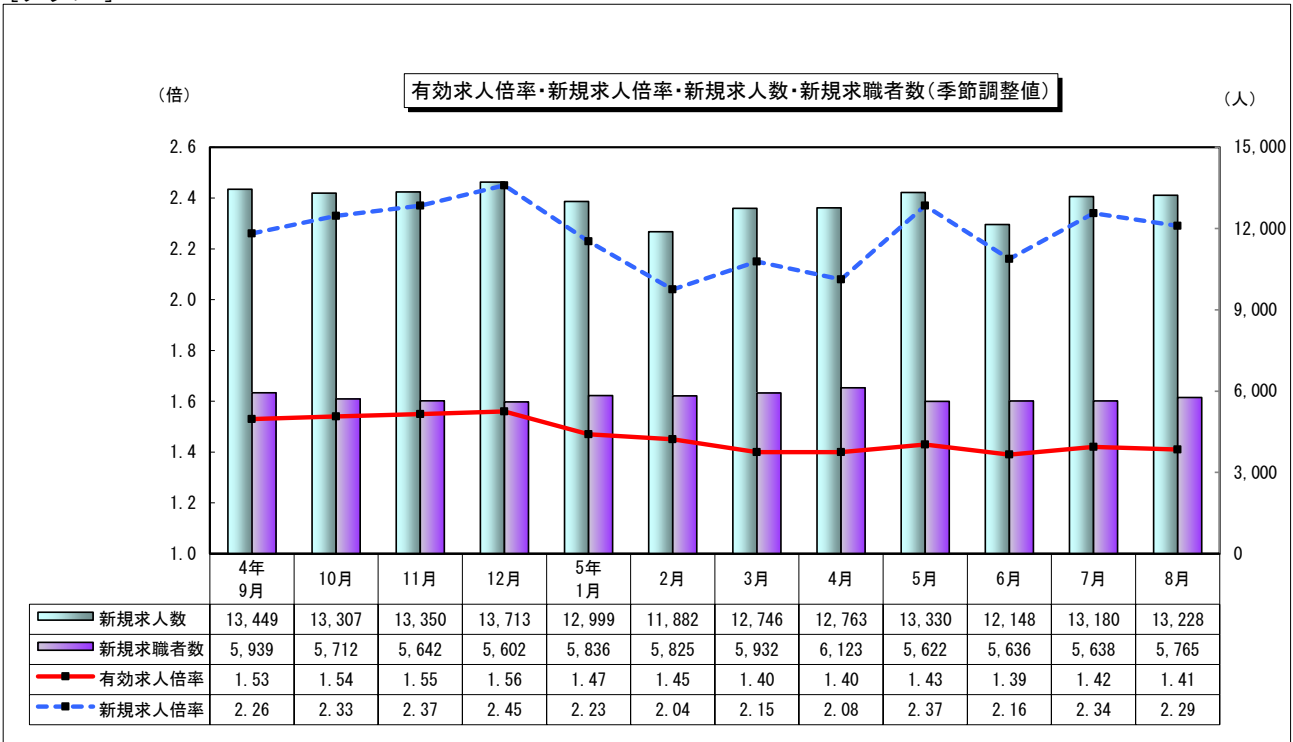


[群馬県]

3. 雇用情勢

一進一退の状況にある

[グラフ9]

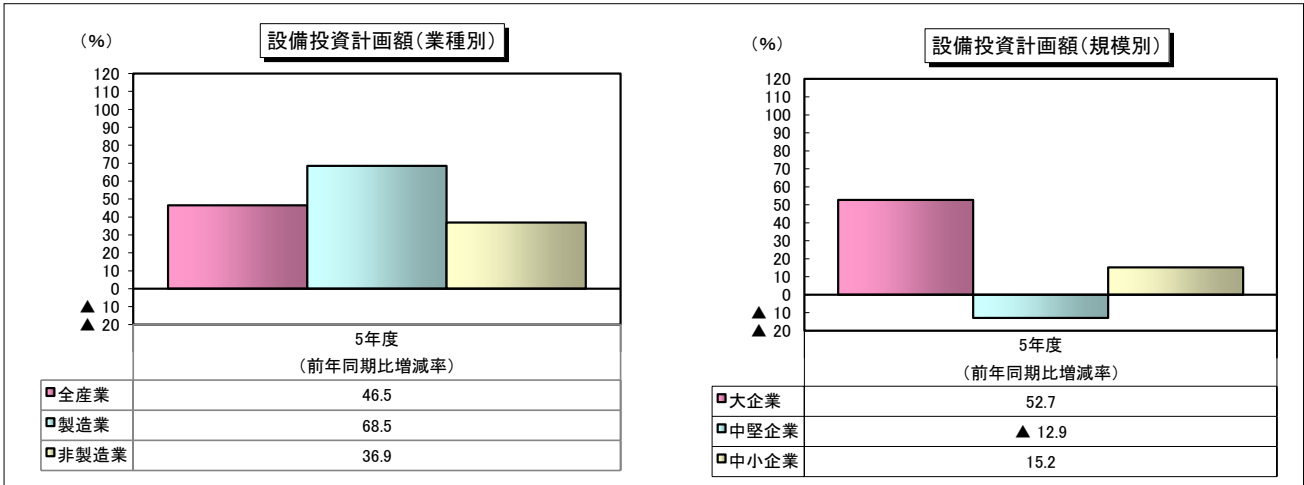


[厚生労働省]

4. 設備投資

5年度は増加見込みとなっている

[グラフ10]

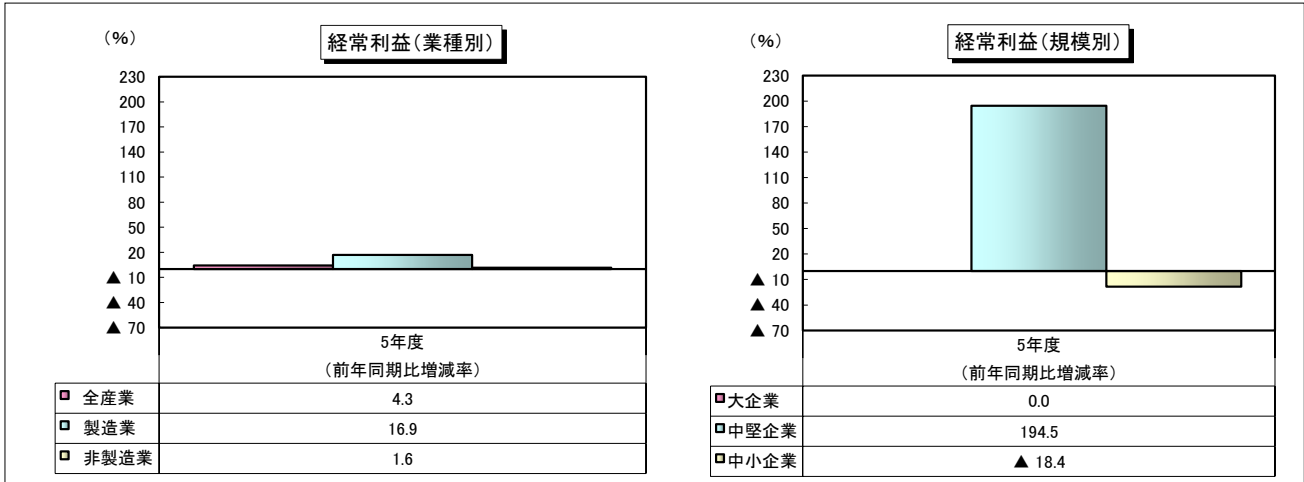


[前橋財務事務所 (法人企業景気予測調査)]

5. 企業収益

5年度は増益見込みとなっている

[グラフ11]

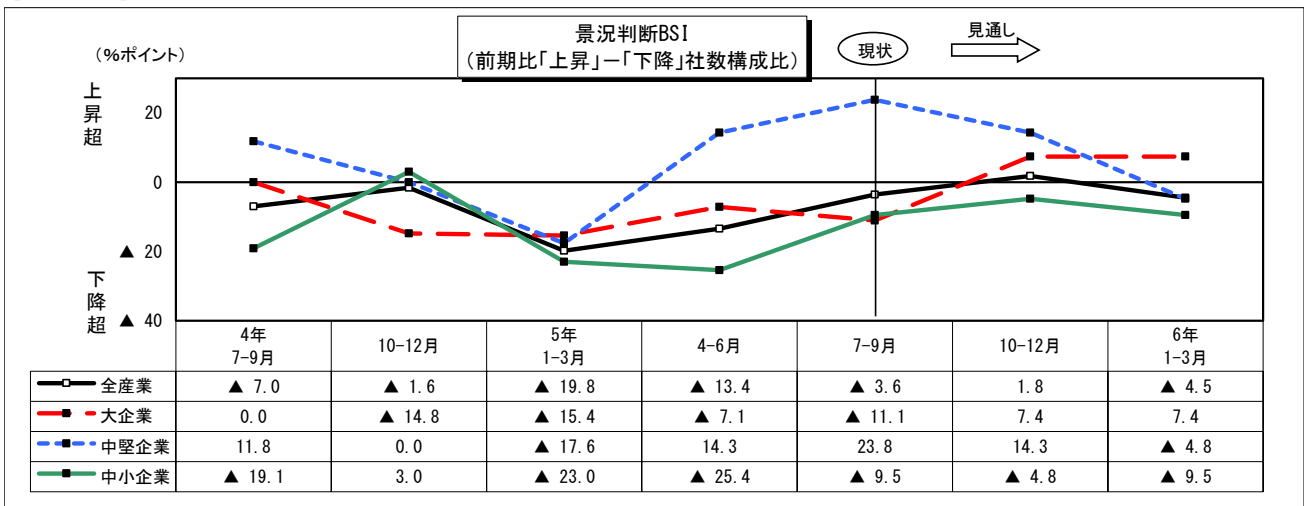


[前橋財務事務所 (法人企業景気予測調査)]

6. 企業の景況感

「下降」超幅が縮小している

[グラフ12]

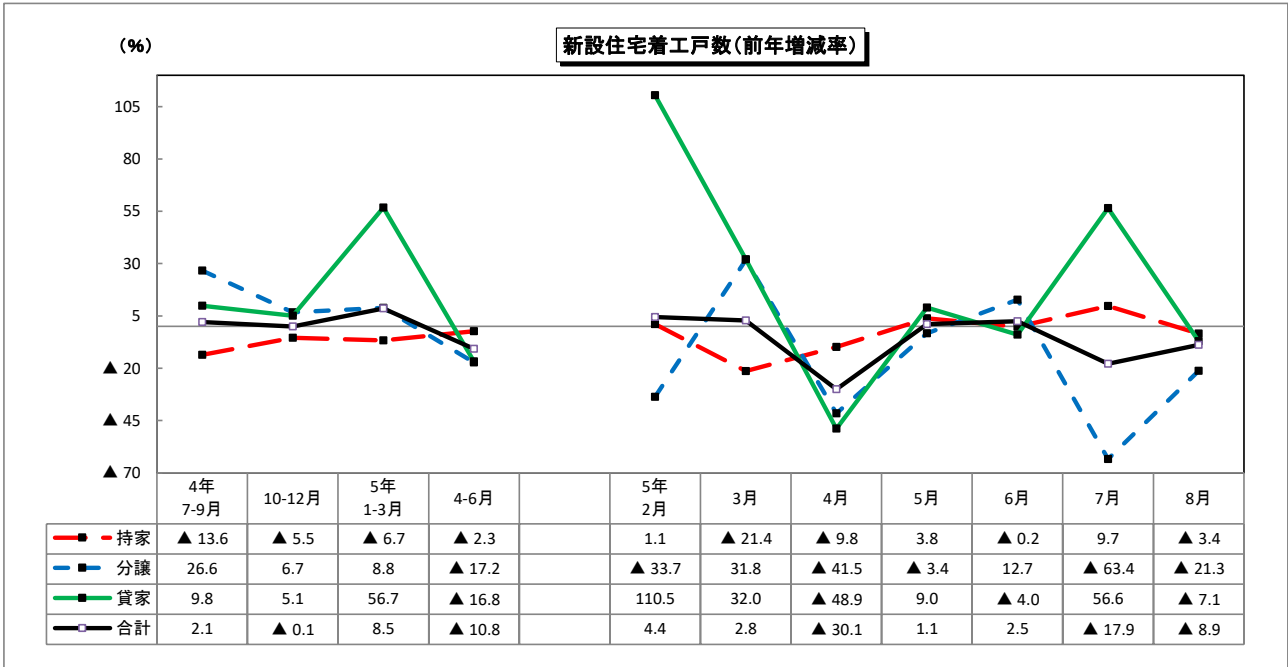


[前橋財務事務所 (法人企業景気予測調査)]

7. 住宅建設

前年を下回っている

[グラフ13]



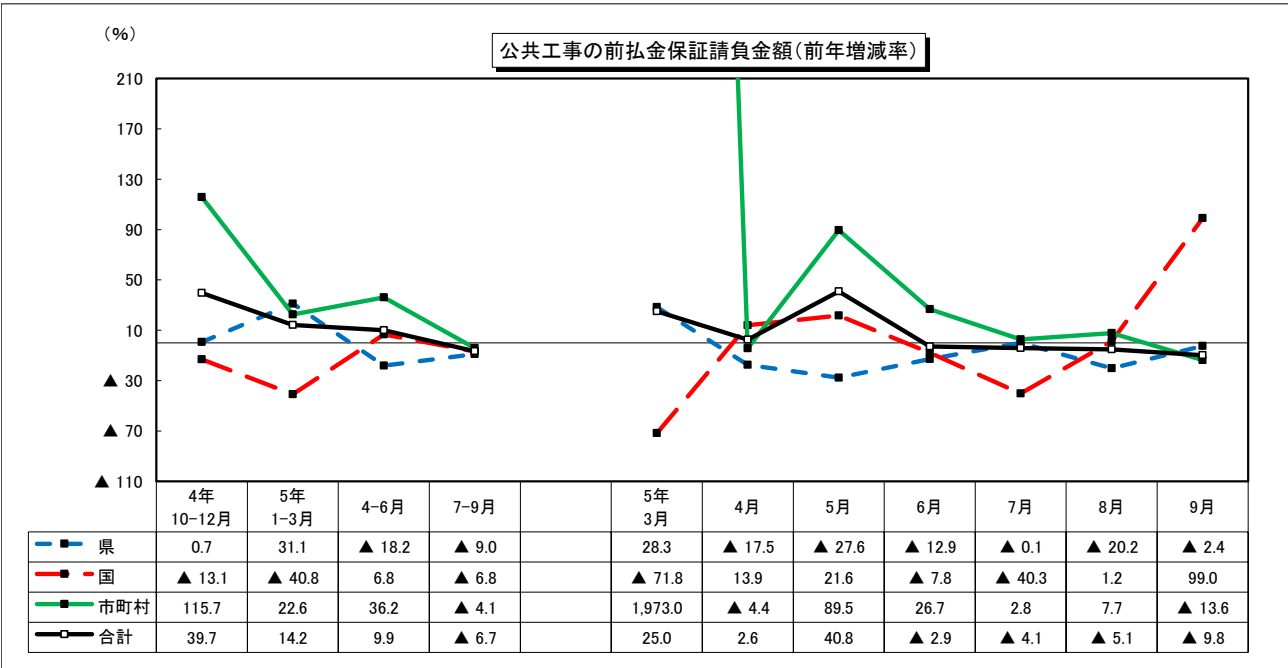
(注) 合計には給与住宅を含んでいる。

[国土交通省]

8. 公共事業

前年を下回っている

[グラフ14]



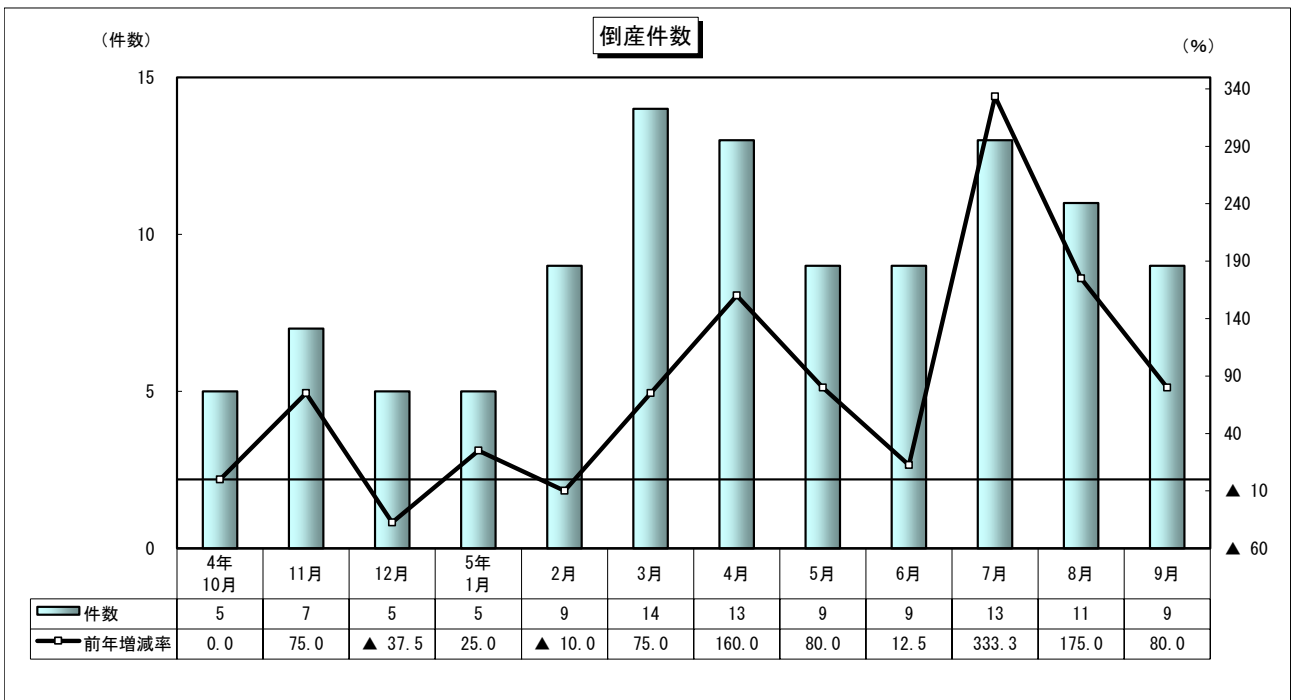
(注) 四捨五入の関係上、各発注者の総和は計に一致しない場合がある。

[東日本建設業保証株式会社ほか]

9. 企業倒産

負債額は前年を下回っている

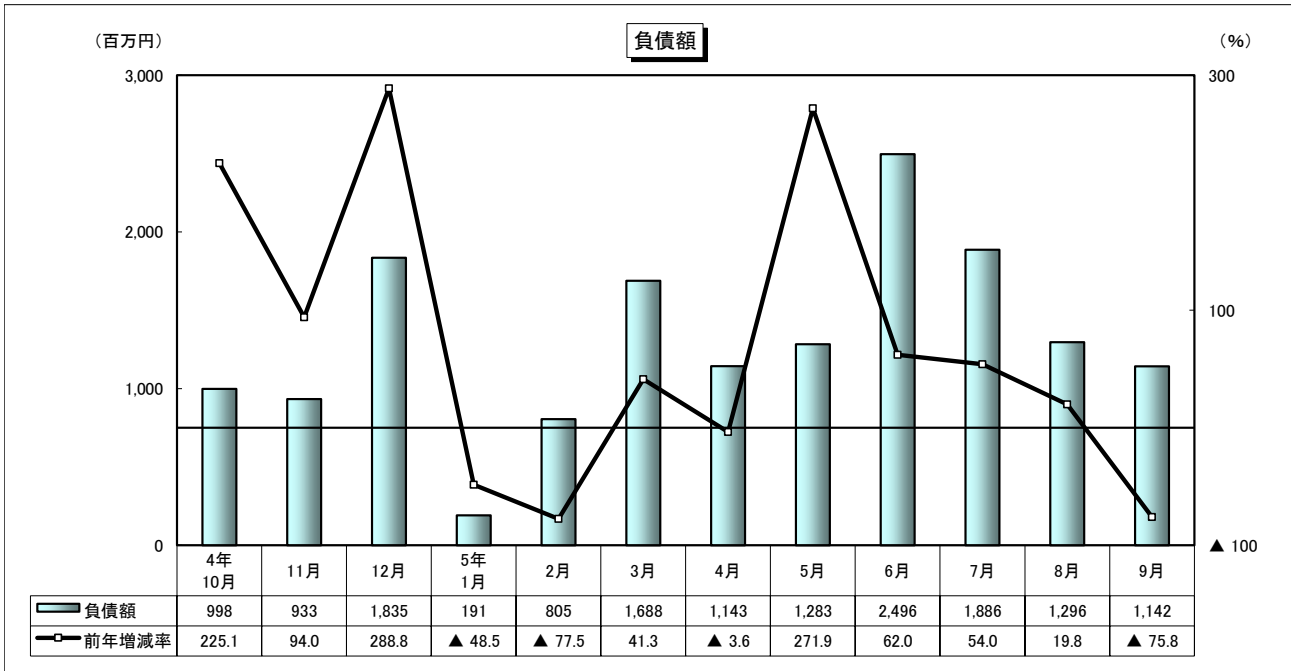
[グラフ15]



(注) 調査対象：負債総額1,000万円以上

[株東京商工リサーチ前橋支店]

[グラフ16]



(注) 調査対象：負債総額1,000万円以上

[株東京商工リサーチ前橋支店]